



健康万歳 ⑳ 変わる医療の常識

義妹に早期がんが見つかり、これをロボットが手術したと話した。現在は機器が高額のために普及には至っていないが、その内に手術は人工頭脳・ロボットの時代が必ず来ると思っている。「神の手」よりも「人工頭脳の手」の方が確かかも知れない。

私がまだ新米医者頃の話だ。当時は麻酔も未熟な時代で「カクテル麻酔」などといって3種ほどの麻薬をミックスして予め注射をし、大きな手術も患者さんの顔色を窺いながら血の海の中で行なわれていた。僅か半世紀少し前のことだが今考えると嘘のような話だ。

国内留学で1ヶ月ほど東京都内の病院で麻酔の研修を受けたことがある。麻酔の専門ドクターが4名ほどいて、早朝から夜まで手術があるのに先ず驚いた。当時はメスを扱う医師の全盛時代だった。患部を広汎に切除しリンパ郭清と相当の所まで行われていた。

その後私もいっばしの麻酔医として重宝がられ大手術にも立ち合った。麻酔の進歩が外科手術の分野でも大きく領域を広げ、手術の数が増えたことは間違いない。

今は体に加えるメスを如何に小さくするかが内視鏡手術の発展を促した。外科医のメス離れもそこまで来ている。

先日テレビで犬の嗅覚を利用して早期がんの検診に利用しているという地方の話が報じられた。がん患者の尿を犬の嗅覚に憶えこませておくが訓練を受けた犬は殆ど100%嗅ぎ分ける能力を持つようになるそうだ。俄かには信じがたいが麻薬犬だって活躍している。可能性は充分ある話だと思う。

ガンの分野にはまだまだ未来がある。血の一滴でも初期がんを見つける技術はそこまで来ている。となれば当然検診の構図も変わって来る。

治療面では夢のガン治療薬も発見され、ピンポイントの放射線治療などが主流を占めるようになれば、患部広汎全摘など昔の話で葬り去られて来るだろう。

50～60年の間に色々な常識の変化を見聞きした。今までは常識と思っていたことが非常識に変わったことも多い。 林 栄一 (立花町・医師)



八女市龍ヶ原 斉藤 ちよ子

月に一度の絵手紙教室を楽しみにしています。絵手紙はなかなか上達しませんが、皆様の笑顔とお話をする事を楽しみに参加させていただきます。 星野で育った私は幼い頃は自然の中で友人たちと遊び回り、あけびをとった記憶があります。今回は昔を思い出して描いてみました。これからの皆様と一緒に参加させていただきます。

健康よもやま話 ㉓



姫野病院：松浦 緑郎 (健康管理士一般指導員)

● 糖尿病性神経障害

糖尿病によって毛細血管の障害がジワジワと進んでいくと、神経は血液から栄養を受け取ることが出来なくなって破壊されます。こうして起こる神経障害を「糖尿病性神経障害」といい、なかでも障害されやすいのは体の先の方（主に下肢で目立つ）に行っている末梢神経と呼ばれるものです。



初期の症状としては、足がジンジンとしびれたり、冷たく感じられるようになり、ときに間歇的な痛みが出ることもあります。さらに進行すると、痛みが強くなり最後には何も感じられなく（感覚の麻痺）なってしまいます。こうなると怪我をしてもなかなか気づかず、さらにそこから細菌が感染しても血流障害があるために傷は治りにくく化膿してしまいます。

また、内臓の動きを調節している自律神経に障害が現れると、「立ちくらみ」・「便秘」・「下痢」・「尿の出が悪くなる」・「ED（インポテンス）」などの症状が起きることもあります。

こうした神経障害は、「糖尿病性網膜症」・「糖尿病性腎症」と並んで糖尿病の3大合併症の一つにも関わらず、失明や人工透析に移行する網膜症・腎症に比べると軽視されがちです。ですが、放置すると足に壊疽を起こしたり、無痛性心筋梗塞を起こして突然死することもあり注意が必要です。また、死に至らないまでも絶えず激痛に悩まされ夜も眠れないなど、患者さんの生活の質（QOL）を著しく低下させてしまう深刻な病気でもあります。

出来るだけ早く治療を始めることが重要なのですが、糖尿病が慢性疾患であるために神経障害も徐々に進んでしまい放置している人も少なくありません。神経障害に対する正しい知識をもち、気になる症状が現れたなら、なるべく早く医師に相談することです。アルコールや喫煙も神経障害の悪化につながるため、これらの危険因子を避ける努力も必要です。

八女農祭のご案内 八女農業高等学校

八女の恒例行事となった八女農祭、今年は「豊咲祭～感謝の気持ちを届けよう～八女農からの贈り物～」というテーマで下記の通り開催します。

日時：11月12日(日)10時～14時

場所：八女市本町 本校並びに北山農場

日頃の学習成果を発表する年に1度の貴重なイベントです。

皆様を心を込めたおもてなしでお迎えいたします。会場は本校と北山農場の2か所に分かれています。本校では、模擬店、販売コーナー、参加体験や展示が設けられます。販売コーナーでは、生産技術科の生徒が摘んだ茶葉を使用したペットボトル茶の販売やシステム園芸科の生徒が心を込めて栽培した野菜苗などの農産物の販売が行われます。また、生活科学科の生徒が縫製したかすりなどの展示コーナーなども設けられます。北山農場では、生物利用科の生徒が愛情を注いで飼育している動物たちとのふれあい広場や乗馬体験などが行われます。北山農場への移動は、本校からシャトルバスを利用してください。

他にも、茶道部やボランティア部などの文化部による展示コーナーなども設けられます。皆様に楽しんでいただけるように工夫を凝らしています。お誘い合わせの上ご来校ください。

11月の校内販売所(八女農みらい館)の開館日

7日(火)、17日(金)、21日(火)、24日(金)、28日(火)

販売時間は、10時30分～15時30分です。



昨年の八女農祭

眩き

骨の話

幼い頃から不思議に思っていた。時を知っているかのように秋の彼岸が近づくと、ワツと湧いて出て赤い花々が群れ咲く。曼殊沙華、死人花の異称を持つ彼岸花の美しい季節となった。十七回忌を迎えた母の命日を色彩

「これが喉仏です」と説明を受け、火葬場で故人の遺骨を拾った経験は誰にもあるだろう。骨壺に入るだけの骨を納め、蓋が閉じられようとした時のこと、当時小学生だった私の息子が泣きながら訴えた。「ばあちゃんの残りの骨はどうするの？全部入れんとかわいそう」と。理屈抜きのか純粋な心の叫びに、大人達からも嗚咽が漏れた。慎しく白く小さな母の骨の記憶である。

「残骨灰」と呼ばれる骨壺に入らなかつた細かな遺骨の処理を巡るニュースが流れた。残骨灰には金歯、銀歯、プラチナ、パラジウム等の有価金属が含まれていてお宝だという。現実的なこの世の事情など故人は知る由もない。数多の骨は何処へ行きつくだらうか。

ペンダントに夫の灰を入れて身につけている友、愛しさのあまり妻の骨を齧ったという老人、わが子の好きだった海へ散骨した母親、納骨堂の上下の柵に並んで眠る両親。生命としての死と、誰からも忘れ去られた時の死と、人は二度死ぬという。ならば大切な故人の思い出話をしよう。そして皆で笑おう。 蒼子